

サービス産業をどのようにグローバル化したらよいか

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

先週は、栃木刑務所という女子刑務所に行ってお話をしたことを少し紹介させていただきました。今日は、その前の6月6日にあったこととお話いたします。その日は経済産業省から呼ばれ、「サービス産業をどのようにグローバル化したらよいか」という座談会に出席しました。私は、委員に選任されて3年目になりますが、その委員の一人として意見を述べました。また、今の経済産業大臣は、この「開倫塾の時間」にも毎年のようにおいでいただいている衆議院議員の茂木敏充先生です。茂木先生は経済産業大臣として大活躍なさっていらっしゃいます。

2. その経済産業省は、大事な政策の1つとして「日本再生のために、これから先10000社を海外展開する」という方針を打ち出しました。10000社の中には製造業もたくさん含まれるでしょうが、サービス産業も7～8割は占めると思われます。そこで、どのようにしたらサービス産業をグローバル化することができるか・海外展開することができるかについて意見を出し合う座談会が開かれ、私はそのメンバーの一人に選ばれて意見を述べさせていただいたのです。学習塾からは、私のほかに、出版社も学習塾もやられている学研の方とベネッセの方の二人が出席して、このようにしたらよいのではないかと各々の意見を述べられました。

3. 人口がどんどん減り消費が低迷している中でも、活路を求めて海外展開を目指す元気な中小企業はものすごく多いです。そこで国は、日本を元気にするため・経済を成長させるために日本をもう一度甦らせようという戦略で、これから5年間で新たに10000社の海外展開を実現させるという方針を昨年6月に打ち出しました。それを受けての今回の座談会です。

4. その座談会で私が提案させていただいたのは、製造業のこれまでの海外展開を見做って、中小企業もサービス産業も各都道府県ごとに海外展開を目指してはどうかということです。栃木県内にも海外展開をしている製造業はたくさんあります。私が社外取締役を6年間務め、現在は顧問をしているマニー株式会社もその一つです。これは宇都宮市の清原工業団地に本社のある会社で、手術をするときに切開部分を縫う針を10000種類ほど作ったり、世界で一番優れた白内障手術用のメスを作ったりしています。一部上場し、ベトナムとミャンマー、ラオスに現地法人を持つ国際企業です。ベトナムでは2000名、ミャンマーでは300名と非常に多くの現地の人が働いています。

県内には、マニー株式会社のほかにも、株式会社ナカニシ、レオン自動機株式会社など海外で仕

事を展開する製造業の会社が数多く存在します。大変なことはたくさんあるでしょうが、それらの会社は幾多の困難を乗り越えながら国際競争力を強め、事業を継続していらっしゃいます。

5. ところで、日本国内にいるとなかなかわかりませんが、世界は日本食ブームです。和食だけでなく、きめ細かなおもてなしに満ち溢れた日本のレストランは世界中のどこに行っても流行っています。きめ細かなおもてなしが喜ばれるのは飲食業だけではありません。日本のありとあらゆるサービス産業はきめ細かなおもてなし・サービスで非常に優れていますので、海外展開が可能です。ですから、我々も含めた栃木県内の中小企業の方々は、これから先どこの国でどのような形で海外展開をしたらよいかについて現地調査を繰り返し、その計画を練り上げることが大事だと思います。経済産業省やJETRO(ジェトロ)、金融機関、県、市町などいろいろなところが手助けをしてくれますので、それらの支援を受けながら行うとよいのではないかと考えます。

6. では、現地調査には誰が行くのかというと、初めから自社の社長や社員が一人で現地に乗り込むわけにもいかないと思います。そこで、JICA(ジャイカ)という国際的な支援機構や県内にたくさんいらっしゃる海外駐在を経験した方々、県内に1000名近くいらっしゃる海外からの留学生の方々、海外留学を経験された方々などに大活躍をいただくことが大事であると思います。

慣れていないせいもあり、今までは海外に行った方を新たに雇うことはなかなか大変だったかもしれません。しかし、これからは栃木県内にいるだけ・日本国内にいるだけでは会社は成り立ちませんので、海外に活路を見出す必要があります。ですから、サービス産業も、製造業で海外展開している方々からいろいろなことを学ばせていただいた上でそれを進めてはどうかと思います。

7. ただ、その場合に一つのところだけで行くのは大変です。ですから、例えば学習塾なら学習塾どうし、レストランならレストランどうし、理・美容院なら理・美容院どうしというように、栃木県内・日本国内の同じ業種で海外に進出したい方と励まし合う仲間をつくり、海外展開をするとういと思います。特に、栃木県内の会社であれば、近隣の群馬県・茨城県・埼玉県内の同業者で海外展開を希望する方々と励まし合う仲間づくりをし、製造業で海外展開をしている企業の皆様のお知恵をお借りして進めるとよいと思います。

8. 国が10000社と言っているのですから、栃木県ではせめて500社、できれば1000社ぐらいは海外に進出して活躍する中小企業を増やすことが大事だと思います。そのためにも、栃木県をはじめとする各自治体は、海外展開を目指すサービス産業を含む中小企業の支援体制をつくり、応援していただきたいと思います。そうすることにより、栃木県の経済は成長の軌道に乗ります。

9. このようにして栃木県をサービス産業を含む中小企業の海外展開のメッカ、つまり中心地とし、県内の経済を活性化させるのがよいのではないかという意見を座談会で発言させていただきました。放送をお聴きの皆様はどのようにお考えでしょうか。